



集会の合言葉

- 人命と国土と主権をふみにじる北爆を今すぐやめさせよう。
- ベトナム戦争の速やかな終結のため、米軍およびその衛星国軍隊を引き揚げさせよう。
- 解放民族戦線を真の代表者とするベトナム人民の手によるベトナム問題の解決を要求しよう。
- 残虐な侵略に手を貸し、エンタプライズ寄港を認める日本政府の政策をやめさせよう。

A面 開会の辞 バエズ一行の入場「国際学生連盟の歌」 バエズ女史のスピーチ 記念品贈呈 全員合唱「風に吹かれて」

B面 ジョンソン大統領と佐藤首相への抗議電報の採択 全員合唱「We Shall Overcome」

これは、アメリカの著名なフォーク歌手で熱烈な平和活動家ジョーン・バエズ女史を迎えて行なわれた「ハノイ・ハイフォン無差別爆撃抗議学生平和集会」の録音から、平和のための力強い連帯の雰囲気を広く伝えるために編集したものである。

集会は、別掲の四つの合言葉でよびかけられ、約3,000人の大学・高校生と多くの知識人が参加し、終始熱気溢れたものであった。

集会は三部からなっていた。第一部 挨拶 神戸大学小島輝正教授（ベトナム反戦神戸行動委）、桃山大・勝部元教授（関西知識人平和問題懇談会）、大阪大・森義宜教授（同）、大阪市大・小野義彦教授（同）、原水爆禁止完全軍縮大阪協議会・和田長久氏、同志社大・鶴見俊輔教授（「ベトナムに平和を！」市民文化団体連合）の六氏が挨拶に立ち、また、世界平和評議会から激励電報が届き（兵庫県学連と阪大フロイント・コールからメッセージ）が寄せられた。

第二部 日米平和運動の交流 バエズ女史の特別講演、「非暴力学校」校長サンドパール氏のスピーチ、その後参加者との間に質疑応答。

このシートに収めた言葉に続けて彼女は「私たちはアメリカ人や日本人である前にまず人間です。

私は政治的・軍事的ナショナリズムに反対します。それは人間を互いにへだて、争わせるものです」と語り、平和運動の統一を訴えた。

第三部 歌による交歓 高石友也氏が諷刺の歌「のんき節」と日本の反戦歌「死んだ男の残したものは」、阪大ニグロ合唱団が「消えない顔」と「一人の手」をそれぞれ歌ってバエズ女史一行を歓迎し、主催者から一行に記念品として日本人形などを贈呈。公演契約上この席で歌えないのが残念だといいつつ、ついにバエズ女史は、合唱グループの「風に吹かれて」に唱和し、それはたちまち3000人の大合唱へと変っていった。つづいて、集会は、二つの抗議電報を万場の拍手で採択し最後に、全員で「勝利をわれらに」を歌った。全員総立ちで腕を組みうたごえは大講堂をゆるがした。その中に透きとおるような声でバエズ女史の「オオ・ロード」が一きわ鋭く響きわたった。

カバー写真：阪大写真部提供。この写真は世界平和評議会機関誌「Perspectives」4月号の表紙に紹介され、またアメリカの春の大デモ行進のブラカードにも使われ、日米連帯行動の見事な証しとなった。

編集発行 平和集会記録発行委員会

